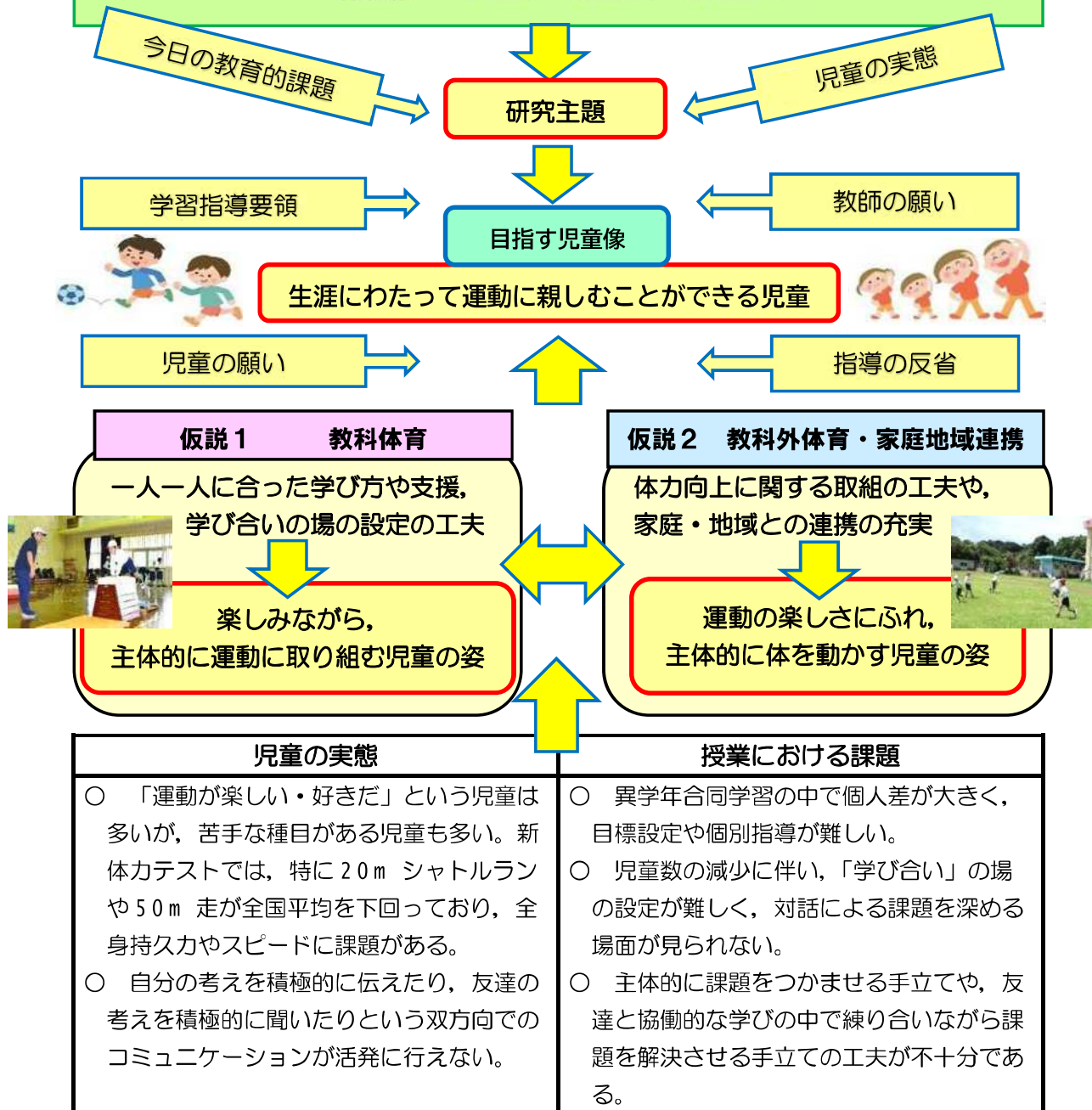


研究主題

「運動大好き」豊かなかかわりを育てる体育学習の創造
～児童同士のかかわり，児童と教師のかかわり，地域・保護者とのかかわり～

1 本研究について

〈学校教育目標〉 思いやりの心と確かな学力をもち、心身ともにたくましく生きる個性豊かな児童の育成
〈校訓〉 やさしく かしく たくましく



令和6年11月27日（水）

中種子町立 南界小学校

2 研究の実際

仮説1 教科体育

一人一人に合った学び方や支援、学び合いの場の設定を工夫することができれば、楽しみながら主体的に運動に取り組む児童を育成することができるのではないか。

① 全校児童による体育の授業の取組

本校は、少人数の単式学級と変則複式学級からなるため、運動の特性を十分に味わうことのできる単元に応じて全校児童13名が一緒に学習する全校児童による体育の授業を実施した。また、各学年の評価基準を設定し、目標が異なる学年でも、系統性を踏まえて学び合えるような場の工夫ができた。さらに、異学年学習グループを構成することで、学び合いの活性化が見られた。

【全校児童による体育の授業を実施した単元】

マット運動・跳び箱運動



異学年グループでの活動

② 学習過程・場の設定の工夫

準備運動は「※Exseed（エクシード）」の動画を見ながら楽しんで行い、単元によって不足する運動は、サーキットコースによる補強運動に取り組んだ。

また、1単位時間の中で、必ず「学び合い」の時間を設定するようにした。動画やタブレット等を活用し課題を視覚化することで、対話を重視した「学び合い」が行えた。学び合いの中では、児童が自分自身の技能の到達レベルをチェックしながら課題を見つけるための「チェックタイム」と、新たな技や発展技に挑戦するための「チャレンジタイム」の時間も設定した。児童が主体的に課題を見つけることで、自ら考えて場の設定を行うこともできるようにした。

※ 鹿屋体育大学とKKBが考案した準備運動。



サーキットコースによる補強運動



チェックタイムの場

チェックタイムでの課題やできばえをもとに、児童自ら考えて場の設定を行う。



チャレンジタイムの場

③ ICTを活用した学び合いの充実

タブレットの録画機能を活用し、お互いの体の動かし方や演技を撮影するとともに、それと一緒に見て話し合いながら課題を見つけられるようにした。実際に動画等で自分の動きを確認することで、技能面における自己の課題を見付けたり、課題解決の仕方を選んだりする資料としたりして、「できる・わかる」実感を味わい、楽しみながら運動に取り組めるようにもした。

その際、本時の運動のポイントを押さえた撮影が行えるよう、手本動画やイラストで確認しながら効果的な動画を撮り学び合いに生かせるよう工夫した。



効果的な撮影のための場の設定



互いに撮影



できばえと一緒に確認

仮説 2

教科外体育・家庭地域連携

体力向上に関する取組を工夫したり家庭や地域と連携を図ったりすることができれば、運動の楽しさにふれ主体的に身体を動かす児童を育成することできるのではないかと

① 全校児童による体力づくり

保健委員会を中心として、毎週火・木曜の朝に体力づくり「リフレッシュタイム」を実施した。ランニング等の走の運動だけでなく、鬼遊びやボール遊び、縄跳び遊び、ストレッチなどの種目を取り入れることで、全ての児童が楽しみながら参加できた。体育的行事の前になると、関連する運動について自主的に体力づくりに取り組む姿も見られるようになった。

また、体力づくりカードも作成し、継続して取り組むことで体力の伸びを実感させ、児童の意欲を持続させつつ体力づくりに取り組ませることができた。



長縄エイトマン



マラソンカード



縄跳び検定チャレンジカード

② 環境整備の工夫

全校児童による体育の授業の学習のポイントを体育館壁面へ常設掲示し、いつでも振り返ったり参考にしたりできるようにして、教科体育をサポートした。

また、取組を継続している「チャレンジかごしま」や地域の体育行事等の記録も掲示し、児童の頑張りが目に見えるようにして意欲付けを図った。



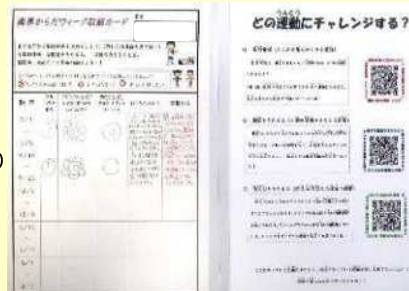
技のポイント掲示物



「チャレンジかごしま」コーナー

③ 家庭との連携

各家庭で、親子で運動に親しむ習慣を形成するため「南界からだウィーク」と称して、学期に1回ずつ強調週間を設けた。裏面には、各家庭で取り組めそうな運動の紹介動画を「柔軟」、「持久力」など種類ごとにQRコードで読み込めるようにしている。長期休業中にも、親子で取り組んだ運動を紹介する課題を出した。学期はじめには掲示して、各家庭が様々な体力づくりの方法を共有できるようにすることで、体力向上を意識して親子でふれ合いながら楽しんで取り組む様子が見られた。



「南界からだウィーク」カード



夏休み取組カード

④ 地域との連携

地域人材の活用として、陸上競技やラジオ体操の外部講師と連携した学習を実施した。体力・技能向上のための練習法を学ぶことや専門的なアドバイスをいただくことで、教師は、専門的な指導方法や指導のポイントを学ぶことができた。また、児童は、専門的な指導により動きのポイントをスモールステップで正確に理解し実践することができた。



ラジオ体操教室



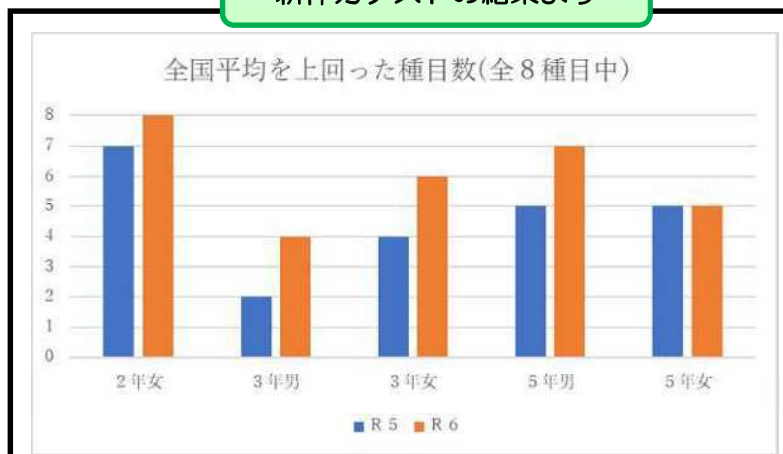
陸上教室

3 研究の成果

●：仮説1 ●：仮説2

新体力テストの結果より

- 新体力テストの結果に向上が見られ、多くの学年で、昨年度より全国平均を上回る種目数が大変増えた。（種目別では、握力・立ち幅跳び・反復横跳び）
- 全校児童による体育の授業の実施により異学年間で授業を行ったことで、上学年の児童の助言等により、下学年は運動のポイントやより高度な技へつなげていくポイントをよりつかみやすくなった。対して、上学年も、下学年との学び合いを通して、前学年までに学習した基本的な動きや技を改めて確認し、確実に習得することができた。
- 異学年で学習することを踏まえた安全に配慮した場作りや自分の課題に合わせて挑戦しようとする意欲を引き出す場作りもできた。
- 一人一台のタブレットを有効活用しながら、異学年で積極的に話し合う様子が見られるようになった。撮影した動画と見本動画を比較しながら、改善点を探しアドバイスし合うことで、振り返りの時には仲間と伸びる楽しさや達成感を味わっている姿が見られた。また、タブレットに録画することで、個々の伸びを蓄積することもできた。
- 全校によるリフレッシュタイムがない曜日でも、体力づくりカードの進捗状況や次にある体育行事の内容をもとに、自分の課題を決めて運動に取り組む姿が見られた。お互いに運動のコツを教え合ったり、励まし合ったりしながら、楽しんで取り組むことができていた。
- 「南界からだウィーク」の継続した取組により、「親子でいろいろな種類の運動に楽しんで取り組めた。」「続けることが大切なので、取組週間以外もやっていきたい。」など、家庭での体力づくりに対する意識が高まった感想が多くあった。
- 地域人材の活用により、児童に専門的なアドバイスをすることができ、技能の向上に繋がった。また、地域の体育行事についても、校区民と共に楽しみながら練習等に参加することができ、生涯にわたって運動に親しむ素地を養うことができた。



4 研究の課題

▲：仮説1 ▲：仮説2

- ▲ 児童の主体的な学びに重点をおく中で、児童自らに学びとらせることと教師がしっかりと教えるべきことが曖昧になり、児童が学習課題を把握できていないことがあった。導入の場面で本時のつかんでほしいポイントをしっかりと言語化して伝えたり、比較の対象を与えて自分の課題へと焦点化させたりすることを実践していく必要がある。
- ▲ 「学び合い」だけでなく、振り返りの場面などでもタブレットを活用して学んだことを全体で共有できるようにするなど、さらにITを有効活用できる場面を研究していく必要がある。
- ▲ 新体力テストでは、20mシャトルランの向上が見られなかった。全身持久力を身に付けるために、日頃行っている朝の校庭ジョギングを今後も継続させていくことや、体育学習の体力づくりや補強運動等について見直しを進めながら計画的・継続的に実施していく必要がある。
- ▲ 児童の意欲をより高め、運動の習慣化が図れるように、体力づくりの内容や年間を通した計画の見直しなど、今後も改善を続けていく必要がある。
- ▲ 家庭でも、日常的・継続的に運動に取り組むことが習慣化できるように、南界からだウィークの取組の在り方について学校と家庭で検討を重ねながら、連携して進めていく必要がある。

体育科学習指導案

令和6年11月27日（水）5校時

第2学年1名・第3学年7名・第5学年5名 計13名

指導者 T 1：増山 真吾（5年担任）

T 2：樋口 諒（本町体育専科）

補助者：新開 さくら（特別支援教育支援員）

- 1 単元名** 2 年：跳び箱を使った運動遊び【器械・器具を使つての運動遊び】
3・5年：跳び箱運動【器械運動】

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

本校では、体育学習において各学年で毎学期、「器械・器具を使つての運動遊び（1・2年生）」及び「器械運動（3～6年生）」の種目を行っている。（1学期：マット運動，2学期：跳び箱運動，3学期：鉄棒運動）さまざまな器械・器具を通して，日常生活では通常味わうことができない運動を経験してきている。

また学年に応じて取り組む技を示すことで，新たな技へのチャレンジ精神やその技を成功したときの楽しさや喜びを体験できる機会がある。

本単元について，第2学年児童においては，第1学年及び第2学年「B 器械・器具を使つての運動遊び エ 跳び箱を使った運動遊び」の踏み越し跳びや支持でまたぎ乗り・またぎ下り，支持で跳び乗り・跳び下り，馬跳びやタイヤ跳び等に取り組ませながら跳び箱運動の楽しさ・面白さを味わわせるとともに成功体験をたくさん蓄積させていきたい。

第3学年児童においては，昨年度までの既習技の復習とともに，第3学年及び第4学年「B 器械運動 ウ 跳び箱運動」の基本的な支持跳び越し技（切り返し系：開脚跳び・回転系：台上前転・首はね跳び）に取り組ませて，成功体験を蓄積させていきたい。その中で発展技（回転系：伸膝台上前転・頭はね跳び）へ挑戦させていくことも目標にしていきたい。

第5学年児童においては，基本的な支持跳び越し技（切り返し系：かかえ込み跳び・回転系：伸膝台上前転や頭はね跳び）に取り組み，自己の能力に適した技ができるようにするとともに，その発展技（切り返し系：屈伸跳び・回転系：前方屈腕倒立回転跳び）へ挑戦させていくことも目標にしていきたい。さらに加えて，ペアやグループで動きをそろえて演技する活動も取り入れることもできる。

また，跳び箱等の器械・器具は重く危険なことから，準備や片付けの際に友達と協力して分担された役割を果たしたり，場の安全に気を配ろうとしたりする態度を養うことができる。さらに，友達と助け合い教え合って練習を進める中で，個々の課題を明確にしたり，課題解決の仕方や場，段階を自己で選んだりする力を養うことも期待できる学習である。

(2) 運動の特性

「跳び箱を使った運動遊び」や「跳び箱運動」は，助走や踏み切りによって空間に跳躍し，跳び箱上に着手し飛び越して着地するまでを，一連の動きとした日常生活では通常行われない動きを含んだ運動である。そして，より高く，より大きく跳び箱を跳び越したり回転したりし，いろいろな技ができるようになることが楽しく，達成感の喜びを味わうことができる運動である。

しかし，できる・できないがはっきりしている運動であり，跳び箱の高さや非日常的な動きに恐怖を感じてしまい，できないときは意欲が低下してしまうこともある。そこで，技に関連した優しい運動遊びを取り入れたり，易しい場や条件のもとで段階的に取り組む工夫をしたりすることが大切である。跳び箱運動は系統性をもった運動なので，導入の段階で基礎となる感覚を段階的に習得できる運動を取り入れることが有効である。

3 児童の実態

(1) 体力テストより

ア 調査結果

「反復横跳び」や「立ち幅跳び」においては、2・3・5年男女全て全国の平均を上回っている。

一方で、「20mシャトルラン」は3・5年の男子と5年女子が全国の平均以下であり、「50m走」も3年男子と5年女子が全国の平均に届いていない。また、「上体起こし」も3年男女と5年女子が全国の平均を下回っている結果となった。

イ 考察

本校の課題は、「全身持久力」と「スピード」である。体育の授業や家庭で取り組む運動（本校で行っている「南界からだウィーク」）を継続的に実施することで、課題となっている運動能力を高めていきたい。また、「筋力」を高めるための取組についても、同様に取り組むことでより一層の課題解決につながるよう考えていきたい。

(2) 運動・単元に関するアンケート調査より

ア 調査結果（調査実施日 令和6年10月1日 調査人数：13人）

① 体育の学習は楽しいですか。

いつも楽しい	まあまあ楽しい	あまり楽しくない	楽しくない
8人	5人	0人	0人

② 跳び箱運動は、好きな運動ですか。その理由も教えてください。（主な意見）

好き	9人	・跳べた時の達成感。 ・ジャンプ力が高くなるから。 ・どんどん高くなって跳べた時が嬉しいから。
まあまあ好き	2人	・新しい段が跳べたら嬉しいけど、とても好きというわけではないから。
あまり好きではない	1人	・前に跳んだとき、体をぶつけて痛くて怖くなったから。
嫌い	1人	・台上前転で落ちそうになって怖かったから。

③ 跳び箱運動で、どんなときに楽しいと思いましたか。（主な意見）

・跳び箱の上を跳びきったとき、とても楽しかった。
・多い段（高い段）を跳べたとき。
・着地が決まったとき。
・新しい技ができたとき。

④ 跳び箱の技ができないときに、あななはどのようにしますか。（複数回答）

できるだけ練習をする	10人
先生や友だちに聞いてみる	6人
できる子の動きを見る	7人
自分と同じ技をしている人たちで話し合う	2人
友だちに動画を撮ってもらって、確認する	6人
YouTube等の動画で確認する	9人
何もしない	0人

イ 考察

①の「体育学習は楽しいですか。」の質問には、全児童が「いつも楽しい」「まあまあ楽しい」と回答している。日頃から体を動かすことが好きな児童も多く、朝から縄跳びを行ったり一輪車に乗ったり、昼休みも遊具で遊んだり、サッカーや野球、バレーボールを楽しんでいる子をいつも見かける。体育学習中も体をたくさん動かして汗をいっぱいかき、種目によって友だちと競争したり協力したり、いつも楽しんでいる姿が見られる。

一方で②の「跳び箱運動は、好きな運動ですか。」の質問には、「あまり好きではない」「嫌い」と答えた児童も見られた。苦手な種目の学習になると、意欲も下がり消極的になる児童も見られる。運動自体は好きな児童が多いので、こうした苦手としている種目について小規模校のよさを生かし、「どこが苦手なところか。」を見付けスモールステップで克服できるような指導や場の工夫を行うことで、跳び箱の面白さに気付かせ自信をつけさせ、本来もっている運動好きへ近づけさせていきたいと考える。

③の「跳び箱運動で、どんなときに楽しいと思いましたか。」の質問には、「多い段を跳んだとき」「着地が決まったとき」など、跳び箱運動がもつ面白さをつかんでいる児童が多い。こうした前向きな気持ちが「新しい技」に挑戦したい気持ちへつながっていくと考える。そのためにも、これまでできた技について「チェックシート」を活用しながら、自己評価と他者評価を交えつつ技の完成度を高めながら、新しい技へ挑戦させていきたい。

④の「跳び箱の技ができないときに、あなたはどうしますか。」の質問には、「できるだけ練習する」「YouTube等の動画で確認する」と答えた児童が大多数であった。「友だちに動画を撮ってもらって、確認する」と答えた児童も多く、タブレットを使用して解決方法を見つけ出すことに慣れてきていると言える。

一方で、「自分と同じ技をしている人たちで話し合う」と答えた児童が2人しかいなかった。これまでも体育の学習において、同じような課題をもつグループや異学年での取組を行っているが、まだ自分から進んで課題を相談する姿勢に定着が見られないと言える。今回の跳び箱運動においても、同じ技を行う児童でグループを作りながら取り組んで行く場面を想定している。その場面において、課題を共有できるような場の工夫や時間の確保を考え、課題を共有して話し合いで解決していく達成感を作り出していきたい。

4 指導に当たって

(1) 対話を重視した「学び合い」

試技に臨む自分自身の様子を知るために、タブレットで動画を撮り合ったり、技のチェックシートを活用し合ったりして、お互いにより点や改善すべき点を交流できるような場の工夫を行うようにする。

(2) 異学年合同学習を生かした「高め合い」

全校児童による体育の授業において、異学年合同学習を生かし上級生と下級生の学び合いを重視させていく。上級生の模範が下級生にとっては技の習得につながることや、上級生自身も与えたアドバイスで下級生が成功することが自信につながることを期待できる。また、誰に対しても意見を交換できることや規則を守って運動する態度を身に付ける機会となるようにする。

(3) 「できた」実感を味わわせる工夫

自分が挑戦している技について、どの部分をどのように改善したかを発表させることで、思考と行動を一体化し、動画やチェックシートを利用させることでより説得力を上げ、「できた」という自信へつながるようにしていく。

また、友達のよいところを見つけて発表させることで、認めてもらったという「安心感」が次の発展技へ挑戦する態度につながるようにする。

さらに、学習の振り返りでは、毎時間毎に実感した自分の成長や学んだことをタブレット上のワークシートに記入させ、次の時間へ向けた自分自身のめあても考えさせていくことで意欲の継続となるようにする。

5 単元の目標

- (1) 跳び箱運動の基本的な運動の行い方について理解し、学年に応じたいろいろな技のポイントを理解して技に挑戦することができるようにする。【知識・技能】
- (2) 自己の能力に適した技の課題を見つけ、課題の解決のための活動を選ぶとともに、学び合ったことを他者に伝えることができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 運動に積極的に取り組み、友達の考えを認め、協力して運動したり、安全に練習したりすることができるようにする。【学びに向かう力、人間性等】

6 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第二学年	①跳び箱を使った運動遊びの行い方について、言ったり書いたりしている。 【踏み越し跳び】 ②片足で踏み切って跳び箱に跳び乗ったり、ジャンプをして跳び下りたりすることができる。 【支持でまたぎ乗り・またぎ下り】 ③数歩の助走から両足で踏み切り、跳び箱に両手を着いてまたぎ乗ったり、またいだ姿勢で手を支点に体重を移動させてまたぎ下りたりすることができる。 【支持での跳び乗り・跳び下り】 ④数歩の助走から両足で踏み切り、跳び箱に両手を着いて両足で跳び乗ったり、ジャンプをして跳び下りたりすることができる。 【馬跳び、タイヤ跳び】 ⑤両手で支持してまたぎ越すことができる。	①跳び箱に走って跳び乗った後、手を叩いたり、回ったりして着地するなど、いろいろな着地の仕方を選んでいる。 ②友達のよい動きを擬態語や擬音語で表現したり、タブレットの学習カードに書いたりしている。	①跳び箱を使った運動遊びに、進んで取り組もうとしている。 ②順番やきまりを守り、誰とでも仲よくしようとしている。 ③跳び箱などの準備や片付けを、友達と一緒にしようとしている。 ④跳び下るときなどに、危ないものがないか、近くに人がいないか、跳び箱などが安全に置かれているかなどの場の安全に気を付けている。
第三学年	①跳び箱運動の行い方について、言ったり書いたりしている。 【開脚跳び】 ②助走から両足で踏み切り、足を左右に開いて着手し、跳び越えて着地することができる。 【台上前転（発展技：伸膝台上前転） ③助走から両足で踏み切り、腰の位置を高く保って着手し、前方に回転して着地することができる。	①上手くできたところやできなかったところを、タブレットの学習カードや掲示物などの連続図に目印や色をつけて、自己の能力に適した課題を見付けている。 ②手の着く位置や着地する位置に目印を置くなどして、技のできばえを視覚的に確認して、自己に適した課題を見付けている。 ③手の着く位置や着地する位置、	①跳び箱運動の基本的な技に進んで取り組もうとしている。 ②跳び箱や踏切り板などの器械・器具の正しい使い方や試技をする前の待ち方、技を観察するときのきまりを守り、誰とでも仲よく励まし合おうとしている。 ③跳び箱などの器械・器具の準備や後片付けを、友達と

第三学年	る。 【首はね跳び（発展技：頭はね跳び）】 ④台上前転を行うように回転し、背中が跳び箱に着いたら腕と腰を伸ばして体を反らせながら跳ね起きることができる。	目線が向く場所などに目印をして、技のできばえを振り返り、自己の能力に適した課題を解決しやすい練習の場を選んでいる。 ④つまずいていた技が上手にできた際に、わかったことを言葉で伝えたり、連続図の絵の横に付箋を貼って文字で示したりして伝えている。 ⑤友達の手に着く位置や着地する位置、目線が向く場所に目印を置いて、動きのできばえを友達に伝えている。	一緒にしようとしている。 ④互いの動きを見合ったり補助をし合ったりして、技がうまくできたときの動き方や気付いたことなどを伝え合う際に、友達の考えを認めようとしている。 ⑤場の危険物を取り除いたり、跳び箱などの器械・器具の安全を確かめたりするとともに、試技の開始前の安全を確かめている。
第五学年	①跳び箱運動の行い方について理解したことを、言ったり書いたりしている。 〈切り返し系 切り返し跳びグループ発展技〉 【かかえ込み跳び（更なる発展技：屈伸跳び）】 ②助走から両足で踏み切って着手し、足をかかえ込んで跳び越し着地することができる。 〈回転系 回転跳びグループ発展技〉 【伸膝台上前転】 ③助走から両足で強く踏み切り、足を伸ばしたまま腰の位置を高く保って着手し、前方に回転して着地することができる。 【頭はね跳び（更なる発展技：前方屈腕倒立回転跳び）】 ④伸膝台上前転を行うように腰を上げ回転し、両手で支えながら頭頂部をつき、尻が頭を越えたら腕と腰を伸ばし、体を反らせながら回転することができる。	①タブレットなどのＩＣＴ機器を活用して、動きのポイントと自己や仲間の動きを照らし合わせ、技のできばえや次の課題を見付けている。 ②見付けた課題を解決するために、複数の場の中から自己の課題に適した練習の場を選んでいる。 ③グループの中で互いの役割を決めて観察し合ったり、学習カードやＩＣＴ機器を活用したりして、つまずいていた技のこつやわかったことを、文字や図で書いたり、映像を活用して発表したりするなどして、仲間やグループに伝えている。	①跳び箱運動の基本的な技や発展技に積極的に取り組もうとしている。 ②互いの役割を決めて観察し合うなど、学習の仕方や約束を守り、仲間と助け合おうとしている。 ③跳び箱などの器械・器具の準備や片付けなどで、分担された役割を果たそうとしている。 ④技を行うなかでわかったことを伝えたり、課題の解決方法を工夫したりする際に、仲間の考えや取組を認めようとしている。 ⑤けがのないように、互いの服装や髪型に気を付けたり、場の危険物を取り除いたりするとともに、試技の前後などに跳び箱などの器械・器具の安全に気を配っている。

8 本時の実際

(1) 目標

ア（２年） 数歩の助走から両足で踏み切り、跳び箱に両手を着いて跳ぶ方法を理解して、両手で支持してまたぎ越しや跳び越しすることができる。

（３年） 助走から両足で踏み切り、足を左右に開いて着手し、跳び越えて着地することができる。
（開脚跳び）

助走から両足で踏み切って着手し、足をかかえ込んで跳び越し着地することができる。
（かかえ込み跳び）

（５年） 助走から両足で踏み切り、足を左右に開いて着手し、跳び越えて着手する中で、開脚跳びの一連の動きが、美しく安定した形で取り組むことができる。

助走から両足で踏み切って着手し、足をかかえ込んで跳び越し着地することができる。
（かかえ込み跳びから更なる発展技：屈伸跳びへ挑戦）

【知識及び技能】

イ（２年） 友達のよい動きを擬態語や擬音語で表現したり、タブレットの学習カードに書いたりしている。

（３年） 上手くできたところやできなかったところを、タブレットの学習カードや掲示物などの連続図に目印や色をつけて、自己の能力に適した課題を見付けている。

（５年） タブレットなどのＩＣＴ機器を活用して、動きのポイントと自己や仲間の動きを照らし合わせ、技のできばえや次の課題を見付けている。

【思考力、判断力、表現力等】

ウ（２年） 跳び箱などの準備や片付けを、友達と一緒にしようとしている。

（３年） 跳び箱や踏切り板などの器械・器具の正しい使い方や試技をする前の待ち方、技を観察するときのきまりを守り、誰とでも仲よく励まし合おうとしている。

（５年） 互いの役割を決めて観察し合うなど、学習の仕方や約束を守り、仲間と助け合おうとしている。

【学びに向かう力、人間性等】

(2) 指導に当たって

ア 「学び合い」における関わりを深めるためにタブレットで動画を撮って、お互いに確認したり、気付いたことや考えたことを伝え合ったりさせるような場を工夫する。

イ 異学年交流を生かした授業づくりを行うために、上学年が模範を見せることで本人の自信となり、さらに下学年にとっては「できるかもしれない」と感じさせるような場を設定する。

ウ 「できた」実感を味わわせるため、自分のできるようになったことや、友達のよいところを発表させたり、自分の動きを動画で振り返らせたりする。

(3) 展開 (5 / 7)

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ ☆評価
つ か む ・ 見 通 す 	1 健康観察・準備運動をする。 (準備運動は「Exseed (エクシード)」の動画を見ながら楽しんで行う。)	(分) 1 2	「Exseed」の良さを考えさせた上で、楽しみながら準備運動に取り組ませる。 「Exseed」の後、跳び箱運動に必要な準備運動を行う。
	2 補強運動を行う。 (跳び箱運動に必要な体づくり運動や用意したサーキットコースに取り組む。)		楽しみつつ体をほぐしながら、跳び箱を使った運動遊びや跳び箱運動に必要な動きを行わせる。
挑 戦 す る ・ 工 夫 す る 	3 本時のめあてを考える。 ※こだわりの視点① (自分からかかわる)		- 前回は振り返ると共に、本時のめあてや学習の流れを確認して、全員が見通しをもって学習を進めることができるようにする。 - めあてについては、「全体」と「個別」に分けて考えさせていく。(前回の自分と比較)
	(全体の共通めあて) 自分が挑戦する技のコツを見つけて、安定して跳べるよう自分のものにしていく。 「チェックタイム」 (1) 前回は踏まえて、事前に自分なりのめあてを立てさせておき、練習に入る。 (2) 自分の跳び方を動画に写して確認したり、お互いに跳び方を見合って、アドバイスを言ったりする。 (3) 上の学年が模範演技を行うことで、本人も気をつけていくポイントを確認したり、下の学年にアドバイスを言ったりする。 (異学年交流を生かした学び合いの場) ※こだわりの視点② (みんなでかかわる)	1 3	- 自分の課題を明確にするために、タブレットを使って動画撮影を行い、動画を自分で確認したり、友人から意見やアドバイスをもらったりすることができるようにする。 - 技ごとの班で集まって、お互いに意見が出し合えるような場の設定を行う。 - お互いに改善した部分を意識できるように、声を掛け合うような場づくりを図っていく。 ☆ 意見やアドバイスなど他者へ伝えようとしたり、自分の技に改善に向けて意欲的に取り組んだりしている。(観察)
生 か す 	4 技の披露会を行う。 「チャレンジタイム」 (1) 自己分析や交流して出されたアドバイスなどを生かして、前回の自分の跳び方と比べながら、改善点を意識する。 (どこを、どんな風に改善したか。)	1 2	- それぞれがチェックタイムで取り組んだ部分を全体で披露するために、改善点をしっかり伝えられるようにワークシートの記録を参考にして発表につなげていく。 - お互いに賞賛し合えるような声掛けや場のづくりを設定する。
	(2) 目標達成した子は、段数を上げたり、別な技に挑戦したりする。		☆ 手のつき方や両足での踏み切り、着地の姿勢などに意識して課題解決を図っている。 (観察)
	5 整理運動をする。		

振 り 返 る	6 本時のまとめと，振り返りを行う。 踏み切り方は両足をそろえてしっかりと板を踏み込み，手はなるべく台の奥につくようにするとよい。 (1) 自己の振り返りは，「わがとも」を活用させた振り返りを行う。 (2) できるようになったことや友達の動きでよかったところを発表する。	8	・ 本時のまとめを行うに当たって，めあてを想起させながら，子どもの意見でまとめを行っていく。 ・ 「できた」実感をもたせるために，自分ができるようになったことや友達のよかったこと等を振り返って発表させる。 ・ 次時に向けて学習の見通しがもてるようにするために，次時の内容について触れておく。
------------------	---	---	---